

令和4年度 松島町総合教育会議

日 時：令和5年3月24日（金曜日）
午後2時15分～

場 所：松島町役場 2階 201会議室

令和4年度 松島町総合教育会議録

招集月日 令和5年3月24日（金曜日）

招集場所 松島町役場2階 201会議室

出席者	松島町	長	櫻井公一
教	育	長	内海俊行
委		員	安倍七恵子
委		員	佐藤晴子
委		員	小澤晴司

事務局	教育次長兼課長	千葉忠弘
	教育課学校教育班長	岸淳一
	教育課学校教育班教育指導専門員	三品隆
	教育課学校教育班主査	金津晶子
	総務課課長	千葉繁雄
	総務課総務管理班長	相澤光治

会議日程

1. 開会 令和5年3月24日（金曜日）午後2時15分 開会（録音開始）
 2. 挨拶
 3. 議題
 - (1) 松島町教育大綱について
 4. 閉会 午後3時05分 閉会（録音終了）
-

1. 開会 午後2時15分

○事務局

それでは、ただいまより松島町総合教育会議を開催いたします。まず、初めに櫻井町長より挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

○櫻井町長

皆さんご苦労さまでございます。

教育委員の皆様方には、お忙しい中ご参集いただきまして、ありがとうございます。

まず、社会福祉協議会が運営する認定こども園につきましては、先生方からもいろいろなご意見を賜りまして、これまで執り進めてまいりました認定こども園が明日、25日に開園する運びとなりました。本当にありがとうございます。本町の未来を担う子どもたちのために、すばらしい環境が整った保育施設が完成しましたので、今後の園運営に大きな期待を寄せていきたい、このように思います。

さて、本日の議題は松島町教育大綱についてであります。教育委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただきまして、実りある会議となりますことをお願い申し上げまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。よろしくどうぞお願いします。

3. 議題

○事務局

それでは、議題に移ります。

松島町教育大綱について、教育課より説明をお願いします。

○岸班長

それでは、教育大綱につきまして説明させていただきます。

現在の松島町教育大綱につきましては、平成30年から令和4年までの5年間の施行期間で策定されております。計画期間の終了に伴いまして、今回、新たに見直し、新しい教育大綱を制定するものになります。

大綱の1ページをご覧ください。

初めに、大綱の施行期間になります。令和5年度から令和9年度までの5年間を規定しております。期間につきましては、法律の定めはありませんが、国からの指針で4年から5年が適当とされており、教育基本計画の見直し時期と同じ5年を制定しております。

次に、大綱の基本方針ですが、こちらにつきましては、めざす姿や方針は町としてぶれるところではないため、現在の大綱と同じにしており、次の基本施策についてから見直しを行っているところです。

2ページになります。1番、学びの芽生えに寄り添う幼児教育について、幼児教育についての大綱となっております。1番から4番までにつきましては、表現は変えておりますが、現在の大綱にもありますとおり、体験を通した心身の育成や幼保小中の連携など、幼稚園での目指す教育の姿を掲げております。5番の教育施設の環境の充実について、今まで記載はありませんでしたが、施設の老朽化や園児数の減少など幼児教育を取り巻く環境が変化しておりますので、施設の適正管理について新たに記載をしているところです。

次に、3ページになります。2番、児童生徒の学びと健やかな成長を支援する学校教育については、小中学校で推進していく項目を記載しております。こちらにつきましても、現在の大綱にあります、学力の向上や心豊かな子どもの育成などについてはそのまま記載しているところです。その中で、2番、情報社会・グローバル化社会を生き抜く教育の推進では、1人1台端末の活用や子ども国際観光科の実施による人材育成の推進について掲げており、また、4番の健康や体力の向上においては、部活動

の地域移行について記載しており、現在の教育現場の状況に合わせた記載となっております。

続いて、4ページになります。5番の特別支援教育の推進、6番、いじめ防止と不登校支援の充実につきましては、国や県の計画にあります多様性の時代に合わせたきめ細やかな教育の推進に対応し、新たに追加した項目となっております。

次に、5ページになります。3番、ふるさと松島の歴史・文化の継承については、松島の歴史と文化を未来へ受け継いでいくための項目となっております。1番については、現在の大綱でもうたわれております歴史・文化の学びについて記載しており、2番の文化財の保存・継承については、松島町歴史文化基本構想に基づいて文化財の保存活用について新たに追加した項目となっております。

続きまして、4番、人生100年時代に向けた生涯学習については、生涯にわたる活動としまして、自主サークル、家庭教育、地域活動についてそれぞれ記載しているところです。5番の生涯学習施設環境の充実では、誰もが学べる生涯学習の場を確保するため、施設の適正な維持管理について新たに記載しているところです。

続いて、7ページになります。5番、生涯にわたって元気に楽しめるスポーツ活動につきましては、現在の大綱については東京オリンピック・パラリンピックに関連したスポーツ推進を掲げておりましたので、それらを見直しまして、スポーツにおける健康増進と年齢を超えた交流の推進について新たに記載をしているところです。

教育大綱の概略については以上となります。

○事務局

それでは、説明が終わりましたので、委員の皆様方からご意見・ご質問があればお願いいたします。

○櫻井町長

教育長から補足説明があればお願いします。

○内海教育長

先だって開催された定例教育委員会の中で振興計画のお話をさせていただきましたが、その基、ベースになるのが大綱になってくると思います。その中で、国の動向を踏まえながら今回の大綱になったわけなので、学校教育と併せながらご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

まず、佐藤委員からお願いします。

○佐藤委員

3ページのところで、特にこれまで知・徳・体の要するに学力と、それから人間性と健康面というところに加えて、今回グローバル化というところをきちんと明記されているところがすばらしいとまず思いました。ここのところがこれまでになかったところで、去年、おとしあたりにはやはり1人1台端末ということで子どもたちに配付されておりますので、こういったICTの活用というのはとても重要になってくると思っていますので、ここのところを入れ込んでいただいたところがすばらしいと思いました。

それから、1点だけ、これはどうなんだろうと思ったところは、4ページの特別支援教育の推進のところなんですけれども、こちら「幼稚園・保育所・小学校等での」となっているんですが、ここを「小中学校等」と中学校が入っているとよろしいのかなと思いました。2ページでも、幼保小中高の連携のところ「幼稚園・保育所の連携や小中学校等」というふうには、ここは中学校をいわゆる義務教育として盛り込んでおりますので、整合性ということを考えますと、4ページの5のところでも小中学校と中を入れ込んでいわゆる義務教育でということのほうが、より義務教育としてということが明記されるかなと思いました。

以上です。

○櫻井町長

それに対して事務局で今後検討して文言整理できますか。

○千葉次長

佐藤委員さんから言われたとおり、中学校を入れた形で見直しさせていただきたいと思えます。よろしく願います。ありがとうございます。

○内海教育長

次に小澤委員からご意見ございますか。

○小澤委員

一つ質問と一つ感想ですけれども、まつしま防災学というのが大綱の中に2ページと4ページに出て

きますけれども、まつしま防災学というのは何か副読本のような形でできているものがあるのかどうかというのがご質問です。

それから、感想といいますのは、全編を読みながら、具体的には、松島まるごと学で体现されるような、この地域の魅力を子どもたちが全身で理解できる、そういう教育のバックグラウンドとしてのすばらしい大綱だと感じております。それは、私も今、松島に住んで2年半になりますけれども、日々この地域の魅力がどれだけ深みがあるかというのを感じます。全国にたくさんの自治体があると思えますけれども、これだけの環境に恵まれた、また農林業、水産業がある町というのは、そして学校もあるという、こういう総合的に魅力的な地域というのは本当にめったにないところだと思います。この環境をフルに学ぶことができる、それはひとえに子どもたちの感性を豊かにすることで、今、日本の各層で求められているのはやっぱり優れた人材ということですが、地域を背負って動かしていく、そのすばらしい人材という根本にはやはり感性があるということだと思いますので、そういう子どもたちを育てる教育の基本を、一つ一つ文字を見ながら、そうだと感じるように感じます。

私も今、大学で森の間伐を始めました。こちらの松島まるごと学より相当遅れていますけれども、もし機会があれば、学生も連れてまるごと学の森林間伐などいろいろご一緒させていただいたり、見学させていただければとも思っております。

以上でございます。

○内海教育長

ありがとうございます。では、まず最初のまつしま防災学について、体系的なものがあって、意図的に計画的に子どもたちに伝えているのかということで、回答をお願いします。教育次長。

○千葉教育次長

各小中、幼稚園でマニュアルを作っております、特に松島の場合は小学校と幼稚園が近くにご覧いただけますので、小学校と幼稚園を連携した形での防災訓練を今実施しておりますので、これは引き続きそのような形で行っていきたくと考えております。

また、引き渡し訓練についても、小幼とは現在も実施しているものの、ここに中学校も入れてみたらどうかという検討もしておりますので、さらに防災学の推進については力を入れていきたいと事務局では考えているところです。

以上です。

○内海教育長

小澤委員。

○小澤委員

ありがとうございます。具体的なトレーニングとか、実践的な教育だということ、よく分かりました。この質問をしたのは、おとし、櫻井町長にもご協力いただいて、京都大学や東大、いろいろな先生方がこの松島に来て、地域にずっと伝えられてきた防災に対するいろいろな知恵というんでしょうか、そういうことを学びに来て、今度、また教育課とかあと防災担当課にもお世話になって本がまとまるんですけども、ようやくこの3月に、去年に続けてですね。そういうような専門家が学ぶいろいろな蓄積がこの町にあるので、そういったものを子どもたちに伝えるような学かなと思って、それで質問しましたが、より実践的な体験の場ということでよく分かりました。ありがとうございます。

○内海教育長

大学生も一緒にという申出がありましたので、当町としましても願ったりかなったりで、松島高生も入ってみたい、そして森林学習をしてみたいという話も来ていますので、ぜひうまくマッチングできればと思います。

鈴木委員からは、当町のまるごと学を高く評価していただいているので、お話ししていただければと思います。

○鈴木委員

今、私拝見して、子どもたちの教育もとても大事ですし、あと、高齢者、これは社会教育です。これも大事ですね。実は、学校で教えるような教育ではないですけども、でもこの基本方針では松島人というのがメインに来ようですね。松島人の特徴。見てみると、最初の1、2は、幼児教育、2番目は学校教育、これは松島っ子を育てる。松島っ子というのがここで。松島っ子ってどういうものかなと見たら、元気で心豊かな松島っ子を育成する。目指す松島人というのは、誇りと絆を育みしなやかに生きる松島人。松島人というのはしなやかに生きる、しなやかに生きる松島の、これが特徴、これ

をつくっていく、社会教育でも全部それでやっていくということなのかなと私は理解しています。

国でももちろん教育、今から10年後というのは、ウィズコロナ、分からないでしょうね、ウクライナとか社会の変化というのは。今からそういう時代に入って行って、そこでもしなやかに生きていかなければならない。私、それは非常にマッチしている、本当にマッチしているんですね。だから、柔軟に生きて、そして誇りがある松島人、これというのは本当に目標としたら最適だと思うんです。

だから、そこをどういうふうに。子どもたちに対しては、まるごと学びたいなので松島の歴史、松島の伝統、そしてよさ、それを今一体になって教育の一環の中に入れて行って教育している。非常にこれは……。私が小さいときにそういうものはなかったですね。だから、やっぱり小さいうちから松島のよさ、伝統、歴史、全部を子どものうちから教育し、元気な松島っ子をつくって、ひいては松島人、しなやかな松島人にしてくという一貫した流れがこの中から読み取れるとえばいいのかな。

それから、注説するようですけども、どこかに、スポーツの活動、4、5あたり、人生100年時代に、これは多分国もそういう目標になっていくんでしょう。そこに、しなやかな松島人みたいな、松島人を目指していくというのは、どこか後ろのほうに一言あってもいいのかなと。一番最初のところにしな松島人というのは書いていない。目指す、松島の本当ところは、みんな、大人、高齢者も松島人なんだなという、それが教育大綱の中から読み取れるといいなと、すばらしいんじゃないかなと思って、私、感心して見せてもらっていました。

○内海教育長

ありがとうございます。しなやかというと、定義はどうするかとよく言われたのですが、先生がおっしゃっていただいたこと全くそのとおりな定義なもので、定義づけるのは難しいんですけども、100年まで柔軟にというような意味合いも入って。ただ、確かに言われてみれば、大綱の中には100年までの話に続いていかないので、教育委員会でもう少し詰めて、文言がうまく盛り込めて一本筋が通ったようなやつにしていきたいと考えています。

○鈴木委員

学校教育、幼稚園、小学校、中学校、高校との連携というのはあるのですが、100年までというと社会教育というのがあるんですけども、スポーツとか、何かその連続してというのがあるといいかなという感想です。

○内海教育長

ありがとうございます。安倍委員さんお願いします。

○安倍委員

保護者とかPTA関係の感想的なものになるんですけども、4ページの(6)のいじめ防止と不登校の充実というところで、子どもたちの問題、いじめ等の問題を未然に防いでとあるんですけども、現実問題どうかというと、子ども同士だけの問題ではなくて、先生と子どもというところで、ちょっとそこからひびが入ってしまって学校に足が向かなくなっているというのも、実は私の知り合いもそういうふうなところにいたりするんですね。

なので、そういうところの問題、子どもだけではなくて、子どもが置かれている現状、背景も踏まえた上でしていかなければいけないというのと、やはりそういう問題が起こったときに話を受け入れてもらえる環境づくりであったり、あとは、先生方もやはり働き方改革で仕事のできる時間というものは今絞られてきている状態で、早急なことは連絡できるように保護者に通達は来ているんですが、この先生にだけは言えるけどやっぱり、子どもからすると、知られていかれるのが怖いとか、どこまで秘密が守ってもらえるのかとか、そういう不安もあるようで、ソーシャルワーカーを活用してみてもどうですかということと言われるようなんですが、やはりそこに行くよりも自分たちで病院を探したりとか、やはり町に助けを、近いところにも助けてもらえる場所はあるんだけど、そういうところで結局保護者がというところで、信頼関係というかその構築も必要になるのかなと。しっかりした場があるのに、自分で精神的な病院を探そうかとなってしまうのも惜しいなと思いつつ、やはり近いところで、旧第三小学校の心のケアハウス、ああいうところの体験がすごく充実していたりというところで、子どもたちが違った形で充実して過ごせていけるような環境が松島にあるというのはありがたいなというのが同時に思ったことです。

続いて、9番の学校・家庭・地域の連携による支援なんですが、過去にも、PTAの会議で手伝っていただきたい、地域との絡みをどうしていったいいかが分からないということで協力を要請はしている

んですが、やはり地域の方がどこまで松島の子どもに興味を持ってらっしゃるのかなというところが、先ほどの会議でも、冊子の分厚いところに、地域の子どもがいたら挨拶しますかななどの数字のところ、そうでもないのかなというようにちょっと残念だなと思ったりしつつ、私たちもちょっと変革期に入っているなということで、地域の方に気軽に入っただけのような行事を、保護者だけの枠ではなくて地域の方にも簡単に入っただけ、それが松島の各学校でも広がっていきけるような取組になればということで、次年度動こうとは思っているんですけども、そこで地域の方がどのように足を踏み入れていただけるのか、そこも模索中なので、自らの経験や技術を伝えたいという方は結構いらっしゃるみたいなので、そういったところからもっともっと密になっていけばいいのかな。この推進を図るとか支援と文言はあるんですけども、それに伴って行動も学校側とか地域側と共にしていっていただきたいというのが強い思いでもあるので、一応これを根底にして、これだけに終わらず、一緒に歩いてほしいなというのが切な願いです。

○内海教育長

ありがとうございました。まず、6番のいじめ防止と不登校支援の充実で、ケアハウスやソーシャルワーカーなど評価していただきましたけれども、これは人間関係の歪みなので、それをどの部分がどうだとかというような形で文言整理する必要があるかもしれないですね。どうですか、岸班長さん、次長。

○千葉教育次長

検討します。

○内海教育長

学校の先生からも不登校になる確率が高い。それからいろんな経済的なことなど。そういうものを少し、総花的になるかもしれないけれども、文言として盛り込む、あるいは、盛り込まなければ、ベースとなるので今後の活動を見ていただくという形でもよろしいでしょうか。

それから、9番の、地域との連携と書いてありますので、そこは教育次長。

○千葉教育次長

一つは、令和4年度から本格的に始動した学校運営協議会、コミュニティ・スクールに地区の区長や分館長もいらっやっているので、そういうところでまず学校内でそういう話を、行事などで連携を図ったり、常にお話しできる態勢を整えるというのも一つだと思っています。

それから、去年、安倍委員さんの、PTAの会長さん方と教育委員会とざくばらんな話合いの場を設けたのも、そこも一つの何かきっかけになるかなと、私、去年出席して感じたところもありますので、常にお話しできる関係をつくっていけば、地域との関係も構築できていくのかなというふうには感じておりますので、その辺連携を図っていければと思っています。

以上です。

○内海教育長

学校運営協議会は松島が先頭を切るような形で委員さんにも謝金を出して、校長先生と同等で対応しながら連携を図っていくということで町長に予算をつけてもらったので、これは今後いい形で、あるいは充実するように私たちも努力していきますので、ここからまるごと学に波及したり、地域学校協働本部のほうに行ってみたりということで、私たちも果を求められるので、意識しながら取り組んでいきたいと思っております。

佐藤委員ご意見ございませんか。

○佐藤委員

私はやはり松島まるごと学がとても素晴らしいと思っております、先ほどの会議でもお話しさせていただいたのですが、どこの地区でもやっぱりその地域の何かしらの学習はしているのですが、松島との大きな違いとしては、カリキュラムの中に組み込んでいて、つまり総合的な学習の時間に組み込んでいるということ。そして、教育委員会と学校との連携が確実に図られていて、学芸員などが説明についたりするということが、専門的なことについても正確に子どもたちが学ぶことができるといった、こういった構築をされているところはなかなかないかなと私は思っております、ですから、松島まるごと学で松島についてしっかり子どもたちが学んでいって、素晴らしい松島、自分たちの誇りに思っほしい、そして大人になってもやっぱり松島を盛り上げていきたいと、そういった気持ちが根底にきちんと根づくのではないかなと思っています。

それで、一つ懸念していることとしては、毎年やっておりますと、これでいいんじゃないかで終わ

っていかないように、やはりPDCAサイクルで、チェックして確実に成果と課題を明らかにして、課題につきましても、どうやったら子どもたちを育てていけるのかといった視点で改善を図っていただければなというふうな思いをしております。

以上です。

○内海教育長

ありがとうございます。それがひいては鈴木委員がお話した、しなやかな松島人にいくんだらうと思いますし、PDCA、それで評価していくのに、その一つとして大漁唄い込みの練習を盛り込んでおりますので、スクラップ・アンド・ビルドしながらやっていきたいと思っております。小澤先生。

○小澤委員

鈴木委員が指摘されたとおり、この松島町教育大綱に書かれてある精神を体現しようとする、子どもたちがメインではあっても、大人とか高齢者とかいろいろな方にもこの考え方で松島というものをより多く理解して、そして子どもたちを支える、そういう構図ができるといいと私も感じていて、それで、西の浜が特に環境が素敵なので、今、近隣の自治体の役場の企画の方とかいろいろな方に来てもらって、そうしますと松島をどんどん好きになる人がだんだん増えていって。そういうふうな日々の試行錯誤を振り返りますと、松島の学校の先生が本当に徹底的に松島を好きになるような、そういうふうな時間が、これまでコロナでなかなか難しかったかもしれませんが、そういう時間を取ることができれば、教える側も心豊かに、松島人になって、そして子どもたちにそれを本気で伝えることができる。そういうような仕掛けといいますか、プロセスも有効ではないかなと今感じました。

○内海教育長

先ほど佐藤委員から学芸員がいてという話がありましたが、先生方もとても分かりやすかったと感想を書いておりました。あと、観光客が、子どもたちと学芸員の案内と一緒に観光客がついて、一緒に聞いていてとても勉強になったみたいなことを言っていましたので、そういう意味では、いろんな形で子どもだけじゃなく大人にも理解していただけるように取り組ませていただきます。ありがとうございます。

では、鈴木委員お願いします。

○鈴木委員

今、おっしゃられたことですが、直接的ではないのですが、今日、議会の中で人口減の問題がありました。せっかく松島っ子が育ってきて、でも、これは教育と関係なく、仕事の問題とかいろいろあって離れていってしまった。これは大きな問題なんですけれども、そしてまた、やっぱり松島はよかったなと戻ってきたら受け入れるとか、何か、さっきのしなやかでね。だから、それを進めていくのはどうしたらいいんだらうと。Uターンして戻ってくるのはいいけれども。職場は仙台とかはいっぱいありますから、ここから通う。問題は、ここの中でどこで関係づけられるかなという、やっぱりこの、100年時代の中で自主サークルのいろんな連携、ネットワーク、松島人でのネットワークとか、そういったところ、活動、そういうのを活発に。そして、専門性の高いいろいろなネットワークとか云々と、研修、講習とかがあるとか、あと地域間交流と学習推進とか。何かこういう中にそれが実践されていくような、波及していくような形だと、職場とか産業関係というのはそれはそちらの専門でやってもらえばいいんですけども、受入れをね、社会人教育、社会教育というのでそういうのは受けられるよと、こちらでね。あと仕事だけを探しなさい、そんなことでいいんですけども、そういうしなやかさというのもあると、それがトータルで実践されるのかなという感想です。

○内海教育長

そういったことを頭に入れながら5年先を見通してやっていきたいと考えております。高齢化も進んでいますので、子どもたちでやる学習とか勉強の部分とどうしても分離しないようにやっていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

それで、もう一つ、町長と子どもたちがタウンミーティングを実施しました。子どもたちから、松島のいいところ、松島の悪いところとか改善したほうがいいところ、3つくらい出ましたが、町長は丁寧に答えていただいたと思います。頭に入れながら、時間がかかるかもしれないけれども、ちゃんと考えておきますからと。子どもたちはみんな喜んで、町長が学校に来るなんてまずあり得ないので。そういうようなことで、かなり、まるごと学だけじゃなくて松島のことを思うというインパクトが強い学習に入っている。中学校も、取り組んでみたいと思っております。

では、安倍委員、最後になります。よろしく申し上げます。

○安倍委員

ページ3の児童生徒の学びのところですが、この最後の部分のスポーツの部分が、生涯にわたって元気に楽しめるというところの2番に夫婦町との交流というところですけども、学習の部分でもそういうことが前々からありましたけれども、文言的に出る必要はないのかもしれないけれども、こちらに明記してあったので、そういえば、教育委員としても参加させてもらえる年があったり、先生方と一緒に夫婦町の学校の授業の様子を見せていただくという機会であったり、もしくはPTA会長さんたちにもそういったところをじかに見てほしいという。コロナの前の年だった、最終的にはその年度末にストップがかかる年でしたけれども、PTA会長のほうからも代表して予定を合せて行ってもらったりしながら、会長のほうでも、そういった授業背景、宿題等々の部分で松島の子たちに何か還元できる方法はないかという形で話し合ったりもしてきたし、せつかく夫婦町というところがあるので、こちらにあって、こっちにもあったらどうなのかなと思いました。

○内海教育長

学習のところでは夫婦町というのは出てきます。にかほ市を意識していると思いますけれども、松島が今日あるのは、にかほ市の学習形態を大きく取り込んでいます。にかほ市があったからこそ、基本的な普段の授業を徹底していこうというようなことになっているので、にかほ市とはまた協力していかなければならないと考えております。

最後に町長からまををお願いします。

○櫻井町長

とりとめのない話をするかもしれませんが、大きく4点ほどお話ししようと思います。

夫婦町については、私が平成9年から議員をやった当時、教育は秋田県のかほ市はどちらかという秋田県内で先を行っていたということがあって、まず、にかほ市に倣おうという姿勢があって、いろんなスポーツ交流もやっただろうし、今でもやっているところもありますけれども、それ以外にもいろんな交流を図ったり、にかほ市から学校の先生が来たり、レベルアップを図っていこうというのは当時からあったと思います。それが今日の松島の根底にあるということは確かだと思います。今教育長が言われたことはそういうことだったんだろうということでは思っていました。松島もあと5年ぐらいで町制100周年になりますけれども、それとにかほ市の夫婦交流40周年が重なるんですね。そういった縁もあるので、そういったところは言葉でちゃんと残しておいたほうが、どこかに子どもたちの交流というのは入れていたほうがいいのかと思っております。

それから、松島まるごと学のタウンミーティング、一小、二小、五小と、6年生の子どもたちと2年続けて開催しましたけれども、議場で答える以上に答弁が詰まるぐらい、結構シビアなことに対して、松島町長、こうした方がいいのではないかという意見を本当に数多くいただいて。子どもたちは、大体五、六人が一グループになって、町長に何を話をするかということでいろんな意見交換をされて臨んできているので、こちらも真剣に答えていかななくてはならない。いかに松島をよくするために自分たちがどれだけのアイデアを出してやっていったらいいのかというのが、総合的に各学校のカラーも出てきて、大変興味深く今年も取りまとめています。

今年は第五小学校の卒業式に私は行きましたけれども、卒業式の祝辞の一定文章を終えてから、タウンミーティングだけで子どもたちに御礼をしたけれども、来年、令和5年も開催予定ですけども、この3か年のまとめとして話した内容が、1つでも2つでも何か行政に反映したらもっといいのではないかなということで、今真剣に、何か1つ、どこの学校のやつでもいいからまとめて1つ、全てというわけにはなかなか難しいんですけども、そういったものを形としてまた表していきたいなと思っています。

それから、鈴木委員が発言された、松島に戻ってくる子どもたちというか、やっぱり人づくりと教育というのは切れないものだなと教育長と常に話しているので、まず、そういうふうに子どもたちからの目線でどういう町がいいのかなという。子育てする世代のお父さん、お母さん方、そういった世代から見て子育てしやすい環境の町であるのか、それから、教育にとって松島というのは、子どもたちを学校に預けて親御さんたちが安心してできる教育環境にあるのかとか、そういったポイントがあるだろうと思うんですね。そういう環境づくりをきちっとやっていくことが行政として我々の一番の仕事であるんだろうと思いますので、確かに、今子どもたちが生まれるのは60人か70人。このままでは衰退していくわけですけども、Iターンなりなんなり、とにかくある一定時期になって子育てをする時代になったら松島に戻って生活すると。そうすると、働く場所も仙台近郊であれば、鉄道駅7

つといっても実際は3つか4つなんです、駅が使えるところは。そういったところを使って通勤していただくとかですね。それから、働く土壌づくりも、実を言うと、令和5年から本気になって工業団地、私たちもやりますけれども、そういったところからも1人でも2人でもまた子育て世代が松島に住んでいただければということで考えています。それが、北部で今年小さな拠点づくりをもう1回やり返そうかという話をしまして、第五小学校の子どもたちからは小さな拠点ということで意見交換しましたけれども、その話をしながらまずやっていきたいと思えます。

今、子どもを育てるお父さん、お母さん、それから我々行政にしても一番今困っているのは、国が何をどういうふうにするかというのがよく分からないところがある。それは、例えば認定こども園、4月1日からめぶきの森がスタートしますけれども、この関係は内閣府だとか、こっちは関係は文科省だとか、こっちは厚労省だとかとあって、子育て世代に関すると3つの省庁をまたぐ。そこにまたこども家庭庁が出てくる。

実はきのう東京に行ってきまして、各県の町村会長が一堂に会しての会議があって、その会議の中で講演が1つございました。その講演が、内閣官房こども家庭庁設置準備室というのがあって、今年の、もうすぐ間もなくですけれども、4月1日からこども家庭庁が設置されてスタートします。職員体制は430人だそうです。それでスタートするそうですけれども、何をやるかという財源はゼロだそうです、令和5年度に関しては。それで本格的な予算は令和6年度からだということで、その内容も、新年度になってから、設置されてからいろいろ肉づけをしていくという話でした。

一番聞いていてがっかりしたのは、小宮次長という方が話をしましたけれども、これまで準備期間2年ぐらいあったはずだけれども、今からなのかと。何も土台、ベースはないのかと。引き出しはいっぱいあるんですよ。聞いたら引き出しはいっぱいあるし、資料もこのぐらいの資料ですけれども、資料の中に項目はいっぱいありますけれども、内容がこれから検討するというのが多いですね、全部。ということは、我々の仲間と周りにいた人たちで言ったのは、最中の皮で、中のあんこは今からだということが。ですから、これをどのようにして、例えばいじめの問題にしても子育ての問題にしても、いろんなことが構築されていくのに、次長の話だと最低3年ぐらいはかかるという話でした。ですから、これから、5年度から、5、6とこの2年ぐらいは、地方からどんどん意見を言うていく必要があるだろうと思えます。

我々もそういうことに関して、一つ一つ取り上げると、部活の問題から全てあるんですけれども、そういったことで、全体的にまとめて要望、要請なりをしていただく必要があるんだろうと思えますので、今後もこういう委員の皆様との会合のときにいいアイデア等をもらって、何か一つ取り入れていければなど。それを今度県としてまとめて。宮城県は子育てに関しては遅れているわけです。これは村井知事も認識しているところであるので、ここはしっかりとやっけていこうということになっていきますので、今度教育長が替わりましてけれども、新たな教育長の下で、またいろいろ教育委員会のご意見もいただいてやっけていければなどと思えますので、よろしくお願い申し上げます。

○内海教育長

ありがとうございます。では、事務局にお返しします。

4. 閉会 午後3時05分

○事務局

委員の皆様から、今回提示させていただいた教育大綱の内容についていろいろ評価していただいた点や、また、これからこういうところを直したら、反映させたらもう少しよくなるのではないかとご意見いただきました。ありがとうございます。今日の会議の内容を整理しまして反映させたいらと思っております。

本日予定しておりました議題については以上となります。

本日はありがとうございます。

この会議録の作成者は、次のとおりである。

令和5年3月24日

松島町総務課総務管理班 班長 相澤光治